

令和3年度 第3回 エルシーブイ放送番組審議会

■開催日時 令和3年12月2日(木) 午後1時30分～午後3時00分

■場 所 エルシーブイ株式会社 会議室 及び リモート会議

■出席者 委員総数 5名

出席委員 (4名)

出席委員	市川 純章	委員
	杉本 研一	委員
	井上 淳哉	委員
	菊池 大介	委員

放送事業者側 (8名)

深井 賀博	代表取締役社長
大野 弘信	専務取締役
佐久 章展	放送制作部長
小池 利幸	放送制作部 報道課長
八幡 聡	放送制作部 企画広告課長
吉田 和晃	放送制作部 FM制作課長
森岡 隆之	放送制作部 制作課
内藤 由里子	事務局

■議 事

1. 審議事項

【審議番組】『地域の守り神 巨樹・巨木』スペシャル

<委員からの主な意見>

□評価意見

- ・全体として、地域の身近にある「巨樹・巨木」にフォーカスをして改めて歴史の文化信仰の観点に見ると、シンプルな番組構成にした事が良好感を生んでいた。
- ・地上からの超小型カメラ、ドローン、それぞれ視点の違う 4K 映像が大変美しく感動した。
- ・BGM の曲も悠久の時の流れをイメージさせる選曲も良かったと思う。
- ・番組の狙いであるコロナ禍でのストレスの緩和効果は出ていると思う。
- ・映像や BGM、解説も品良くまとまっていた。
- ・特にカモシカの映像は、狙って撮れる映像ではなくて、良く頑張って撮っていて大変素晴らしく、全体としては大変良い番組だった。
- ・地域の中にある巨木、大きな物を見せるためにドローンは最適な見せ方だったなと思った。
- ・スケール感を感じ、下から見上げるだけではわからない山の中に、こんな大きな木が突然あるんだらうという不思議さと、日常、車で通りかかっても見落としてしまうような場所にある木を、ローカル的な視点で見られたのは、映像としてすごく面白いと思った。
- 映像資産として残す、アーカイブの意味でもすごく価値のある物だったと思った。
- ・諏訪地方の巨木で知らないものもあり、今回紹介して頂き是非見に行ってみたいと思った。
- ・朴訥な語り口の高橋先生の説明は、先生のお人柄が伝わってきた。
- ・ドローンの美しい景色の映像は、いつもながらの LCV の得意の分野かと思った。

□指摘意見

- ・先生のお話が聞き取れないところがあった。
- ・ナレーションにあわせてテロップが使われていたが、先生の説明部分もテロップで重要箇所を伝えても良かったと思う。
- ・映像が綺麗なので、音声にもう一工夫あっても良かったと思った。
- ・巨木に近くに人間も入れ込むと、巨木の大きさが伝わるので良いのではないか。
- ・近くにいた人のインタビューもあっても良かったと思う。
- ・ゆったり、ストレスを和らげるというコンセプトには BGM が騒々しい。
- ・巨樹・巨木というと自然調和的なイメージを持った、静かな、爽やかな音楽を期待したい。
- ・音楽が最後まで同じだった様に思う。単調に感じて残念。
- ・思ったほど自分たちの地域であることを感じなかった。
- ・地域に関連した情報が不足していたと思う。
- ・数値的な統計的な情報に意味があったのか疑問。
- ・専門家が肉声で、しかも顔まで出して話す必然性がなかったと思う。

- ・ 専門家への依頼は情報提供にとどめ、局のアナウンサー等が適切なシナリオをナレーションするか、テロップのみで良かったと思う。
- ・ 専門家の意見の必然性を感じなかったのは、専門家に地域との関連性を感じなかったからだと思う。
- ・ 前半のところでBGMが突然途切れ、フェイドアウトしないで切れて解説者の方だけの話だけになったので、フェイドアウトした方が良かったと思った。
- ・ 場所の小さい略図があると場所がわかりやすくなり良かったと思う。
- ・ 文化や生活などの情報が少なく、地域との歴史をあまり感じさせなかった。
- ・ 「巨樹・巨木」の定義を番組の中では、地上 1.3m・幹まわり 300cm と言っているのだから、単位を使い分ける必要があったのか気になった。
- ・ テロップで伝える事と、解説の方が言葉で伝える事のタイムラインを整理すると、すんなりと綺麗だなと思える番組になると思った。
- ・ 今回の見どころは何であるか冒頭で伝えられると、見どころがわかり、それぞれの巨木の個性や特徴を通じてシリーズとして面的に見えてきて面白いのではないかと思った。
- ・ カモシカの映像にはビックリして、すごく印象に残った。今回、ニュース内の短い特集コーナーを纏めた形だからかと思うが、毎回同じフォーマットで淡々と繰り返されていると感じるので、もう少し各回にポイントがあるといいと思った。

□テロップについて

- ・ 表記の仕方が、ばらばらなのではと違和感を感じた。
社内でルールが共有されていないのではないかと疑問を感じた。
例を挙げると、木の種類を表示する際に「カタカナ、ひらがな、漢字」が混在している事。
今回の番組資料でも、木の名前を漢字、ひらがな、カタカナと表記がバラバラになっていたが、あえてこのように使い分けする必要があるのか疑問を感じた。
- ・ 右上に表記されている番組のテーマのテロップについて、位置が毎回バラバラで、煩わしく感じた。
- ・ 「無限の美」とか「存在感」というコメントに対し、テロップで特に括弧を付けて強調しているところがあるが、本当に必要なのか疑問を感じた。
- ・ 下諏訪町の「高木のしだれ桜」のシーンのところで「圧巻の景色」の「圧巻」とテロップで強調しているが、映像を観れば「圧巻」とわかるので、不要だと感じた。
- ・ 「見る」という表現に対し「魅る」という字を使っていたが、この漢字の使い方違和感を感じた。
- ・ 真柏という木の名前について、テロップの「真柏」は一般の人には読みにくいので、ルビが欲しいと思った。
- ・ テロップや細かい文字の部分が気になり、そこに意識が引っ張られて映像に集中ができなくなる視聴者もいるのではないか。映像と言葉だけでわかるところはテロップを入れないなどの工夫も必要ではないか。
- ・ テロップの右上の「#」は不要。木の説明の名前だけでよかったのでは。
テロップの文字が大きくて、せっかくの綺麗な映像を邪魔していると感じるところがあった。

□追加情報は効果的だったか

- ・巨木の持つ存在感は映像で伝わるが、その巨木の背景には文化や信仰の対象になっていることなど、高橋さんの解説があったので、情報が広がり効果的だったと思った。
- ・解説なくても成立する位、映像とテロップだけの情報でも見られるものだった。
そこに解説が付き、解説とテロップ解説のすみ分けが、しっかりしている印象だった。
日本国内の色々な森を見てきた専門家から諏訪の木について情報がいくつもちりばめられていて、ちょっと特別なところに住んでいるんだとか、地元民的な視点では解説部分も楽しめた。
- ・全国の巨木の中で、諏訪の中にも全国的に珍しい巨木があるという解説がわかりやすい内容だった。
- ・取材をしていく中で、思わぬ価値を見つけ新たな発見があったならば、集まった素材の価値をもう一度見直して再構成すると良かった。

□参考

- ・字幕の表記に関する参考資料

[日本語表記ルールブック](#)

[記者ハンドブック 第13版 新聞用字用語集](#)